



北陸学院大学

レデック
REDeC

地域教育開発センター

活動報告書 2023

地域教育開発センター「REDeC: Regional Education Development Center」とは、北陸学院大学が行っている学問分野(幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活その他の学問分野)に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

2023年度 参加人数
連続公開講座 2講座 112名 REDeC セミナー 9講座 171名

2023年度 テーマ 未来へのポリフォニー

連続公開講座 ～いのちの重さと輝き～



『貧困の現場から社会を変える ～生活困窮者支援の現場から～』

講師 稲葉 剛 氏

2023年6月10日

一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事
認定 NPO 法人ビッグイシュー基金共同代表
立教大学大学院客員教授

2023年度連続公開講座～いのちの重さと輝きは、生活困窮者への相談・支援活動行い空家を利用した「ハウジングファースト型」の住宅支援を進めておられる 稲葉 剛 氏を講師にお招きしました。学生を中心に 80 名を超える参加者があり、生活に困窮する人々の「住まい」を支える活動の現場から見てきた日本社会の現状やそれにかかわるセーフティーネットについて、また、その粘り強い活動で行政を動かし制度も変えていくことができるということをお話しいただきました。。 参加された方々からは、『身近に感じていなかった貧困問題が想像以上に身近で尚且つ深刻である事を感じました。』『貧困・ホームレスは無縁だと思っていたが「私たち社会の問題」として捉えることが大切だと分かった。』『これまでの制度を変えるまでの活動をされてきたお話を直接聞いて良かった。』といった感想が寄せられました。

完全予約制(無料)の託児を別室で行い、2組の利用がありました。

コーディネーター: 田中純一 地域教育開発センター長(社会学科教授)



冬の連続公開講座 ～この地で生きる～



『災害被災地をたずねて ～私たちのできること～』

講師 川渕 映子 氏

2023年10月7日(土)

難民支援 NGO「アジア子どもの夢」代表
東日本震災支援ボランティア「東北 AID」代表)

冬の連続公開講座は、北陸学院短期大学保育科を1970年に卒業された川渕 映子 氏を講師にお迎えしました。

活動の原点は戦時下のベトナム。以降、自然災害や紛争で苦しむ世界各地の住民、中でも高齢者や子どもたちの元に駆けつけ、必要な支援を続けてきました。講演に参加した学生にとっては刺激的な時間となったようです。

「私はやりたいと思う気持ちはあるけれど、行動に移す事ができなくて困っていました。しかし、川渕さんの話を聞いて、自分ができることからすることに意味があると学びました。」

「ボランティアを通して自分に何ができるのかを考えて行動に移すことが大切だと学んだ。自分に出来ることが何なのか探ることが支援につながると聞いて、一歩踏み出す勇気を出すことで、支援やボランティア活動に参加できると思った。」川渕さんの思いと行動力、発想力に背中を押された学生が何人もいたようでした。

コーディネーター：田中純一 社会学科教授



キリスト教関連講座

「歴史とオルガンが奏でる未来」

講師 楠本 史郎 氏 (北陸学院大学学長・学院院長)
山本 悦子 氏 (北陸学院ウィン館館長)
春日 朋子 氏 (北陸学院中・高キリスト教音楽主事)

2023年8月26日(土)

北陸学院飛梅キャンパスにて開催されました。当日はウィン館の史料編纂室が所蔵する貴重な学院の歴史的展示品について解説を受け、グロリアチャペルのパイプオルガン演奏に耳を傾けつつ、過去・現在・未来に思いを巡らせました。パイプオルガンの音色で「ふるさと」も聴き、参加者一同、歴史の深みと広がり思いを馳せました。

参加者の方からは、「ウィン館にずっと行ってみたいだったので、良い機会になりました。」「歴史の流れがとても興味深かったです。オルガン演奏も素晴らしいばかりでなく、様々な音色を聴くことができとても楽しめました」「オルガンは間近で演奏を聴くことができ、心がとても豊かになった気がします。」などの感想をいただきました。

コーディネーター：矢澤励太 大学キリスト教センター長 (栄養学科教授)



「トルコ・シリア地震 緊急帰国報告会」

講師 吉椿 雅道 氏 CODE 海外災害援助市民センター事務局長
 植田 隆誠 氏 CODE 学生スタッフ 関西学院大学総合政策学部 4年
 島村 優希 氏 CODE 学生スタッフ 大阪大学人間科学部 4年生



社会連携講座では、CODE 海外災害援助市民センター事務局長吉椿氏、関西学院大学4年生植田氏、大阪大学4年生島村氏の3名をゲストスピーカーとしてお招きし、2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震の現地活動報告を行った。それぞれ別の時期に派遣された学生お二人の報告後、吉椿氏が補足、総括する形で進行した。2名の大学生の報告を重ねることで、同じ被災地点の復旧の進捗状況を捉えることができただけでなく、民族的、政治的背景が被災者の復旧・復興に及ぼす影響といった当該地の特殊性について理解することができた。大学生が現地では何を見つめ、どのように感じ取ったのかに参加者は高い関心を寄せ耳を傾けていた。当日は本学学生、教職員に加え、北陸学院高校、金沢市、白山市、小松市などから一般市民の参加もあり会場からの質問も活発になされるなど、学びの多い機会となった。

コーディネーター：田中純一 地域教育開発センター長(社会学科教授)

生涯学習講座

「小松豪雨災害から1年～次の災害に備える～」

2023年9月30日(土)

講師 小松市社会福祉協議会職員 森田 敏裕 氏
 北陸学院大学 よりそいの花プロジェクトメンバー

生涯学習講座は、小松市社会福祉協議会主査の森田敏裕さんをお招きし、2022年8月に各地に被害をもたらした大雨による発災から小松市ボランティアセンター開設までの流れ、活動内容、当時の被害の状況などを写真と合わせてお話していただきました。災害が起きてからボランティアセンター立ち上げまで、ホームページ等で迅速に募集がされていたこと、行政や他県のNPO団体が連携して、住民の生活復旧というひとつの目的に向かって突き進んでいたことがわかりました。本学のサークル、よりそいの花プロジェクトも甚大な被害を受けた小松市中海町でボランティア活動を行いました。「写真洗浄」と「サロン活動」にスポットを当て、社会学科3年堀さんと、谷田さんがそれぞれ活動報告を行いました。また、北陸学院中学校・高等学校の部活動であるシャローム部の代表2名(角尾さん、浅田さん)もボランティア活動に参加したときのことを口頭発表しました。来場者の中には、実際に支援を受けた方がおられ、学生に当時の感謝を伝えてくださる一面があり、会場全体が暖かな雰囲気になりました。最後に学生から、私たちはあなたがたのことを「忘れていませんよ、気にかけていますよ、いつでも話を聞きますよ」という存在になりたいという今後の活動に向けての決意も述べられました。



コーディネーター：田中純一 地域教育開発センター長(社会学科教授)

キャリアアップ講座

「管理栄養士国家試験対策講座」

キャリアアップ講座は管理栄養士国家試験合格を目指す栄養士の方ならどなたでも受講いただけ、(まだ受験資格のある年度に達していない栄養士の方も受講可能) 本学の卒業生なら受講料は無料です。(模擬試験受講料・資料代及びテキスト購入費は別途必要) 2023年度は合格にむけて7名の方が受講され、それぞれの分野ごとに出題傾向に沿って内容解説、模擬問題の演習、解説や留意点の補足等の講義を受けました。最後に受講生各自が自宅で模擬試験も受験しすべての日程を終えることができました。

ガイダンス 9月9日(土) 導入テスト他

開講日・科目・講師

- ①9月16日(土) 基礎栄養学：新澤祥恵 氏
栄養教育論：三田陽子 氏
- ②9月30日(土) 社会・環境と健康：木村敏行 氏
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-解剖生理学-：中谷壽男 氏
- ③10月7日(土) 公衆栄養学：三田陽子 氏
食べ物と健康-食品学-：坂井亮介 氏
- ④10月21日(土) 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-病理学-：中谷壽男 氏
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち-生化学-：西正人 氏
- ⑤10月28日(土) 臨床栄養学：中川明彦 氏
給食経営管理論：田中弘美 氏
- ⑥11月4日(土) 食べ物と健康-食品衛生学-：榎本俊樹 氏
応用栄養学：俵万里子 氏

健康科学部 (栄養学科)

「いざという時に備える栄養と食事」

2023年7月29日(土)

講師 石川県栄養士会 高信 雅子 氏

石川県栄養士会より高信雅子先生を講師にお迎えして、『いざという時に備える栄養と食事』を開催し、3組の方が参加されました。教えていただいたのは、ポリ袋を使った一人分の料理(ごはん・おかゆ(無洗米使用)、ラタトゥイユ、切干大根のサラダ、デザートのおさつまいもようかん)と新聞紙で作る食器です。ポリ袋に材料と少量の水を入れ、空気を抜き(水をはったボールの中でするときれいに抜けます)ポリ袋をグルグルねじって結び、水を入れた鍋にいれ沸騰させ、(料理に合わせて沸騰させる時間や蒸らし時間、取り出し時間が異なります)それぞれ出来上がった後、新聞紙で作った食器(クッキングペーパーやポリ袋も使用)に盛り付けました。参加者の方からは、「500mlのペットボトル1本から、4人分の料理ができたことに驚いた。」「真空のやり方、災害時に食べる食事をつくってみて、災害時だけでなく普段の生活にも役に立つと思った。」「ポリ袋とわずかな水と熱源があれば、災害時でも温かい食事ができると安心しました。」等の感想をいただきました。とても充実した、おいしくて楽しい講座となりました。ありがとうございました。



コーディネーター：俵 万里子 (短期大学部食物栄養学科講師)
三田 陽子 (健康科学部栄養学科講師)

「親子で楽しむおやつづくり」

講師 栄養学科・食物栄養学科教職員

2023年9月30日(土)

『親子で楽しむおやつづくり』が開催されました。健康科学部栄養学科教職員のサポートのもと、ハロウィン白玉、牛乳蒸しパン、バナナラッシーを親子一緒にゆっくり作っていただきました。

作ったおやつは、成長期のおやつとしてのおすすめポイントを含むだけでなく、こねる、丸める、混ぜる、すくうなど子どもたちが様々な調理動作を体験できるものでした。子ども用包丁でりんごを切ることにもチャレンジしました。

参加者の方々より「子どもがとても楽しんで参加できたのでうれしかった」「なかなか家で一緒にじっくり作るのは難しいので、こういう機会があるのはとても良い」などの感想をいただき、タイトル通り親子で楽しんでいただけた講座となりました。



教育学部（幼児教育学科）

「教育における多様性（ダイバーシティ）を考える ～「みんなと違う」うちの子どもたちはどう育ったのか～」

講師 ポーター 倫子 氏（幼児教育学科教授）

2023年7月8日(土)



『教育における多様性（ダイバーシティ）を考える～「みんなと違う」うちの子どもたちはどう育ったのか～』が開催されました。今回の講座では、日本でも近年浸透してきた「多様性」（ダイバーシティ）を重視した教育のあり方について、米国の事例を取り上げながら紹介しました。「多様性」の中でも、特にギフテッド児と自閉症児の支援が学校教育の中でどのように行われているかについて、講師の子どもたちの実体験を、写真やドキュメンテーションを用いながらお話ししました。アメリカでは、「違い」に対して「寛容」であることが、教育や実社会の中で求められていますが、日本では依然として皆と同じ、皆に合わせるものが求められ、そのためにいじめられたり、苦しんでいる人が多いように思われます。そのことについては、参加者の方々からの感想の中でも聞くことができました。今回の講座を通して、日本社会における Neurodiversity（脳の多様性）推進の重要性について、参加者の方々とも共通理解できたことを感謝しています。

教育学部（初等中等教育学科）

「バイオリングデータを活用した小学校における学習プログラムを考えよう」

講師 川真田 早苗 氏（初等中等教育学科教授）

2023年5月30日(火)

申込み者が少なかったため、中止となりました。

「観光が社会に与える影響」

講師 沢田 史子 氏（社会学科教授）

2023年8月26日(土)

『観光が社会に与える影響』が開催されました。

観光には経済的効果や地域文化の継承・創造、国際平和などの効果があります。観光立国推進基本計画（2023年3月閣議決定）においても、成長戦略の柱、地域活性化の切り札とされています。一方で、近年、観光地に旅行者が過剰に押し寄せることによって、交通渋滞や混雑、ゴミの大量排出、騒音などが起こるオーバーツーリズムという現象が問題となっています。このような観光によるプラスの影響、マイナスの影響について、様々な事例を取り上げながら紹介し、持続可能な観光について考えていただきました。

参加者の方からは「今日は改めて「観光」ということを考える時間となりました。有名な場所だけでなく「生活文化の観光対象化」ということを拝聴し地域おこしとも関連し、大変興味深く思いました。」「オーバーツーリズムが問題となっていることを知りました。友人と食べ歩きをすることもよくありますが、座れるスペースがあればそこで食事できるし、混雑も少し解消するのではないかと思います。」などの感想をいただきました。



「ソーシャルメディアのことを学ぼう ～メディア社会学入門～」

講師 内田 啓太郎 氏（社会学科准教授）

2023年10月21日



「ソーシャルメディアのことを学ぼう～メディア社会学入門～」が開催されました。当日は、インターネットの世界においてソーシャルメディアがコミュニケーションの手段であり、音楽やイラスト、小説といった幅広いジャンルの作品が発信されていく場所でもあることをこのメディアから生まれた文化や流行現象を挙げながら解説しました。その一方でソーシャルメディアには「負」の側面があり、それらを「フェイクニュース」や「デマ情報」の存在とあわせて解説しました。特に「負」の側面について私たちがこのメディアを利用することで誤りのある情報または偏った方向性の情報にさらされてしまうという「フィルターバブル現象」、「エコーチェンバー現象」を紹介し、解説したところ、参加者からは「私自身も日々感じている情報の偏りや誤りについて、理解しやすい言葉や考え方を学ぶことができました」など等の感想を頂きました。

出張講座

本学教員が会場に出向き、無料で一般の方向けに講義を行っている出張講座は、2023年度は25団体からのお申し込みを受け、20回、延べ324名の方が聴講しました。

◇地域教育開発センターには学生が率先して展開している事業があります◇

よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトは東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市の支援をきっかけに2012年に発足しました。自然災害で被災された全国各地を訪れ、住民の方々と共に歩みながら災害復興や地域振興に向けた活動をしています。



2023年度は、前年に起きた小松市の水害被害による写真洗浄活動や住民交流のサロン活動、5月連休に起きた奥能登地震(珠洲市)の家屋の片付けと廃棄物の撤去、その後の住民交流サロン活動(足湯なども)、七尾市崎山地区でのクリーンビーチ活動、津幡町の豪雨被害の被災家屋片付け等を行いました。

そして2024年1月元旦に起きた能登半島地震での復興支援ボランティアが始まりました。二次避難者向けカフェの運営補助、炊き出し補助、被災家屋の片付け、廃棄物の撤去、希望を伺った支援物資の募集と配布など、被災された方に寄り添っての活動を続けたいと思います。

スイーツ研究所

北陸学院大学スイーツ研究所は地元食材を使用したオリジナルスイーツやアレルギー対応のスイーツなど、安心して美味しいスイーツの開発に取り組んでいます

2023年度も新しいスイーツのレシピを研究し、蜂場の見学なども行いました。

また、栄光祭での打木赤皮南瓜のクリームブリュレ・蜂蜜をつかった米粉のフィナンシェの販売、LAKUNAはくいプレオープン企画 子育て応援フェスタでのみっこりどら焼き(白玉入り)の販売の他、校内販売会(クリームブリュレ・米粉のフィナンシェ・カヌレ各種・プロッコリー肉まんなど)を4回行うことができ、それぞれ大変好評をいただきました。



クリエイショングループ

北陸学院大学クリエイショングループは、行政や地域団体からの依頼を受けてイベントスタッフとして活動し、子ども向けの参加型ステージパフォーマンスを提供しています



2023年度にも、金沢市中央校区での大夏祭り、北陸学院第一幼稚園の夏季保育、桜木幼稚園の夏のお話し会、奥卯辰山健民公園のはだしの王国、産業展示館での子育て支援メッセージしかわ、芳斉児童館のクリスマス会、長土堀公民館のママカフェクリスマス会、デイケアセンター玉川苑等多くのお声がけをいただき作成した教材を使ったパフォーマンス披露や、イベント運営のさまざまな補助を行うことが出来ました。また、例年のように栄光祭でオレンジリボンキャンペーンを行い、沢山の来場者にグッズの配布等も行うことが出来ました。

キャンパス活性化プロジェクト

帰属意識を高める取り組みの一環として、学生同士の協力を深め、地域住民とのつながりを築く活動を行っています。キャンパスの花壇に花を植えたり、美化活動に積極的に取り組んだりしています

2023年度は、「キャンパスを花いっぱいにしよう」の取り組みのなかで、プランターや培養土を準備し、チューリップを球根から育ててかわいい花を咲かせました。また、通り道の美化を行うなど学内の環境整備を行いました。



2023年度も北陸学院大学の連続公開講座・REDeC セミナー、出張講座へ多くのお申込みとご参加をいただき、誠にありがとうございました。

2024年度も皆様に喜んでいただける講座を多数ご用意し、お待ちしております。